

2023年度
教育・研究・社会貢献活動
取り組み概要



社会学連携・研究推進センター

《はじめに》

兵庫医科大学創立 50 周年を契機に、2007 年から取り組んできた同一法人二大学での教育・研究・社会学連携活動をより一層充実すべく、2022 年 4 月、兵庫医科大学と兵庫医療大学は統合し、医学部・薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の 4 学部からなる医系総合大学としてスローガン「EMPOWER THE PEOPLE ～心に響く医を、私たちがいるかぎり～」の下、新たなスタートを切りました。2022 年 10 月には梅田健康医学クリニックを開設し、西宮・神戸・篠山・梅田の 4 キャンパスが連携しつつ、教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。今回、本学の取り組みについて外部有識者の皆様から忌憚のない御意見、御助言等をいただくため、アドバイザリーボード会議を開設する運びとなりました。本報告書には、同会議の資料として、2023 年度の本学の特徴を示す数値データと独創的な取り組み内容を取りまとめました。ご一読の上、本学が医系総合大学として更に発展・展開できますよう、同会議にて活発な意見交換をさせていただければ幸いです。

《地域とのつながり》

表 1 に四学部在学生の兵庫県出身者数およびキャンパス所在地出身者数（2024 年 4 月 1 日現在）をまとめています。全在學生 2,234 名中 56.2%に相当する 1,255 名が兵庫県出身者です。また、神戸キャンパスでは在學生 1,534 名中 329 名（21.4%）が神戸市出身者です。

薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の 2023 年度卒業生の兵庫県内への就職率は 53.6%、神戸市内への就職率は 10.5%でした（表 2）。なお、以下 2 点については、ご留意ください：就職先として本社住所を登録せざるを得ないため、薬学部卒業生の兵庫県内への就職率が低くなっていること；医学部卒業生は研修医として医療機関に所属するため、地域への就職者数を示していないこと。

これらの結果から、本学は、地域の高等教育機関としての責務を果たしているだけでなく、地域医療の発展・充実に不可欠な医療人の確保にも貢献していると考えています。

表 1. 在学生のキャンパス所在地出身者数
2024 年 4 月 1 日現在

	医学部 (700 名)		薬学部 (738 名)	
	兵庫県 出身	西宮市 出身	兵庫県 出身	神戸市 出身
1 年次	42	11	63	23
2 年次	50	14	59	15
3 年次	43	10	57	16
4 年次	35	9	52	21
5 年次	36	5	55	16
6 年次	38	9	76	31
合計	244 (34.9%)	58 (8.3%)	362 (49.1%)	132 (16.5%)

	看護学部 (449 名)		リハビリテーション学部 (347 名)	
	兵庫県 出身	神戸市 出身	兵庫県 出身	神戸市 出身
1 年次	84	28	77	16
2 年次	99	28	69	27
3 年次	85	26	72	26
4 年次	88	28	75	18
合計	356 (79.3%)	110 (24.5%)	293 (84.4%)	87 (25.1%)

表 2. 2023 年度卒業生のキャンパス所在地就職者数

	兵庫県内	神戸市内
薬学部 (109 名)	19 (17.3%)	4 (3.7%)
看護学部 (101 名)	81 (80.2%)	14 (13.9%)
リハビリテーション学部 (85 名)	58 (68.2%)	13 (15.3%)
合計 (295 名)	158 (53.6%)	31 (10.5%)

《教育活動》

医系総合大学である本学は、予防から急性期・慢性期、そして看取りにいたるまでをサポートする多職種協働（Interprofessional Work : IPW）を実践しつつ未来の医療を担う自律的なプロフェッショナルを養成するため、多職種連携教育（Interprofessional Education : IPE）に全学を挙げて取り組んでいます。ここでは、2023 年度に IPE 関連科目として実施した学部横断型カリキュラムについて簡単に紹介させていただきます。

早期臨床体験実習

4 学部 1 年次生全員が学部混成の 5、6 人のグループに分かれて取り組む合同チュートリアルを通して、コミュニケーション能力などチーム医療の実践に不可欠な資質を育む科目です。また、西宮キャンパスの医学部生と神戸キャンパス 3 学部生は、兵庫医科大学病院の 21 病棟・急性医療総合センター・薬剤部・リハビリテーションセンターにて個別に臨床体験実習を受けます。2023 年度は医学部生 110 名と 3 学部生 314 名が受講しました。以下は、合同チュートリアルのシナリオの一部、グループワークとリハビリテーションセンターでの体験学習の様子です。

シナリオ A: 『友人として・助産師として』

大学時代の友人である日さんが、私が勤める病院に勤めてやってきたのは、4 月上旬のことでした。私は、その日またまた再会が運命だったのですが、待合室で懐かしい顔を見かけ、とても驚きました。病院で会うなんて、どこか懐かしいのではないかと心配しましたが、本人は学生時代の印象そのままに元気な様子でした。お互いの近況について少し話した後、彼女は、私が助産師であることを思い出したのか、「実は結婚したかも知れなくて良かった」と教えてくれました。結婚の経緯、日さんは結婚も満員だということがありました。

日さんは、28 歳、産科、大手食品メーカーに勤務しています。出身は北陸地方ですが、大学進学をきっかけに地元を離れ、神戸でひとり暮らしを始めた。大学卒業後は、東京と名古屋の会社に勤め、この年から神戸の本社へ転勤になったそうです。学生時代を過ごした神戸に戻ってこられて、また、以前から希望していた商品開発を担当する部署に配属されて、この夢からの新しい生活を本当に楽しみにしているのだそうです。

日さんの現状は、2 歳年下で、大学時代のサークルの後輩です。私も知っている人で、学生時代の懐かしい思い出が湧きました。今は名古屋に居ていて、妻ちゃん（友人）の父親はそめいし（お笑い芸人）と聞かれました。今までは結婚について具体的に考えたことはないし、彼もまだ。今すぐ結婚したいとは思っていないだろうとのことでした。日さん自身、いつかは結婚して子どもも欲しいと漠然と考えてはいたものの、もっともっと先のことというのが現実なところだったようです。彼女は、「結婚を真剣に喜びたいけれど、色々なことが不安定で悩んでいる」と話してくれました。結婚を打ち明けたら彼はどう思うだろうかと妻ちゃんを無事罵められるだろうかと結婚したら、出産したら、どんな生活になるのだろうか今の仕事は大好きだけれど、辞めるとかはないのだろうか日さんの聴えるそんな不景は、同じ年頃同じ仕事を続けることについても決して他人事とは思えませんでした。



チーム医療概論

神戸キャンパス 3 学部 2 年次生全員が、講義と症例シナリオを題材とするグループワーク・ディスカッションを通して、チーム医療の概念・重要性、チーム医療における各医療職の役割、責任、そして連携などについて理解するだけでなく、チーム医療の一員として「自ら学び、自ら考える力」を基盤とする「課題探究能力」を育む科目です。2023 年度は 3 学部生 307 名が受講しました。

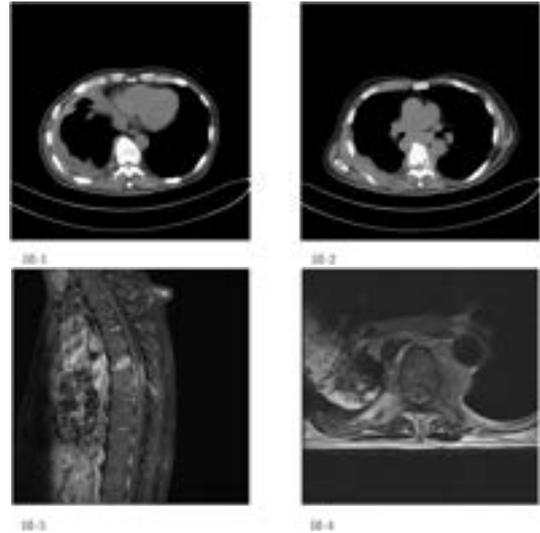
チーム医療論演習

医学部3年次生と神戸キャンパス3学部4年次生が、学部混成の6、7名のグループに分かれ、「痛み」をテーマとする症例シナリオから患者や患者家族の背景・価値観を理解し、患者の生活にまで思いを巡らせて課題解決に取り組みます。課題解決にあたっては職種毎の分業ではなく、チームメンバーの一人として意見を述べ、考え、それぞれの患者に適した多面的なアプローチを導き出す過程を学生たちが体現する演習です。また、事前に配布した課題についての個人テスト（IRAT）とグループテスト（GRAT）を活用するチーム基盤型学習（TBL）も取り入れ、能動的に個人とグループで学習するダイナミクスも育みます。

2023年度は4学部生396名、「学术交流に関する包括協定」を締結する関西学院大学・大学院から公認心理師を目指す学生5名（文学部総合心理学科・文学研究科総合心理学専攻）、合計401名が参加しました。以下は、2023年度に用いた症例シナリオの一部抜粋です。

症例
54歳 男性 慢性胸椎中変節・骨転移
主訴
背中の痛み
現病歴
2020年1月に胸椎転移を指摘され、当院を受診し右慢性胸椎中変節(図-1 胸部単純CT)と診断された。手術適応は無く抗がん剤治療が施行されるが腫瘍は増大傾向であった。2022年7月に腫瘍の右第6、7肋骨への直接浸潤と右胸壁外への浸潤(図-2 胸部単純CT)が見つかり、放射線治療が施行された。これにより右胸胸郭痛は軽減した。その後、2023年1月のCTで、T6-7への転移と脊柱管内への浸潤(図-3,4 胸部単純MRI T1強調像)が見つかった。背中の痛みで行動困難となったため、放射線治療目的で入院となった。痛みに対しトラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合剤錠(トラムセツト[®])4錠分4とオキシコドン塩酸塩水溶液錠剤(オキソコンチン[®])20mg4錠分2を内服しており、入院後はオキソコンチン[®]20mg4錠分2から錠分2に増量となった。また、疼痛時服用でオキシコドン塩酸塩水溶液錠剤(オキソ[®])5mgを1日4回程度服用していた。疼痛コントロール不良のため緩和ケアチームが介入することとなった。患者は痛みのため体を動かすことができず、筋力低下が見られ、ADLは低下傾向であった。

妻の発言(緩和ケアチーム介入時)
仕事は、会社内で営業職に就いている。「今、ちょうど忙しい時期で、部下にも迷惑をかけると申し訳ないと思っています。頑張って治療して、早く仕事に復帰したいです。こう見えても、部下には頼られているんです。上司の意向も聞いてあげないといけないし。仕事の進捗には電話で1時間ほどかかります。言葉なので、男同士の時は率直な話もありますしね。なるべく痛みは取ってみたいですね。」



多職種連携総合臨床実習

2022年度から新たに開講した実習です。ささやま医療センターにおいて1クール4泊5日間のスケジュールで医・薬学部5年次生と看護・リハビリテーション学部4年次生がチームとして入院患者さんのケアに取り組みます。2023年度は医学部生13名、薬・看護・リハビリテーション学部生各8名、合計37名が3クールの実習に分かれて参加しました。以下は実習風景です。カリキュラムの都合上、一部の学生しか参加できていませんが、今後、徐々に拡充していく予定です。



国家試験の結果

〈教育活動〉の最後に本学 2023 年度新卒生の国家試験の結果を示します（表 3）。薬学部卒業生の合格率は全国平均並みでしたが、医・看護・リハビリテーション学部の新卒生については例年通り全国平均合格率を上回る好結果でした。

表 3. 2024 年度 4 学部新卒生の国家試験の結果

資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	全国平均 合格率
医師	111	110 (99.1%)	95.4%
薬剤師	77	65 (84.4%)	84.4%
看護師	101	99 (98.0%)	93.2%
保健師	28	28 (100.0%)	97.7%
助産師	6	6 (100.0%)	99.3%
理学療法士	41	41 (100.0%)	95.2%
作業療法士	44	43 (97.7%)	91.6%

《研究活動》

本学では、全学横断プロジェクト研究「Hyogo Innovative Challenge (HIC)」事業、ダイバーシティ推進室による研究助成、そして社会学連携・研究推進センターが所掌する研究助成を通して、女性研究者、若手研究者をはじめ本学研究者の研究活動の活性化およびモチベーションの向上に取り組んでいます。これらの事業・助成制度における 2023 年度採択件数を表 4 にまとめています。なお、HIC 事業には、本学の研究を起点として、兵庫県の医療・産業に貢献し、ひいては新たに得た知見を世界へ発信することを目的として、2018 年度から着手しています。ま

た、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特性対応型）」の一環として、ダイバーシティ推進室が、女性研究者等の研究能力の向上と優れた研究成果の創出を目指し、2020 年度から研究助成を実施しています。

表 4. 2023 年度 学内研究助成採択件数

制度	件数
全学横断プロジェクト研究 HIC 事業 (2022 年度)	3 計 3
ダイバーシティ研究費助成 ・女性研究者 ・リスタートアップ (性別不問)	2 - 計 2
若手研究者海外研究成果発表助成 ・海外学会発表 ・海外論文掲載費	6 2 計 8
研究推進助成 ・西宮キャンパス研究活性化 ・西宮キャンパス若手 ・神戸キャンパス	4 8 6 計 18

社会学連携・研究推進センターは、研究助成制度だけでなく、外部資金獲得および研究テーマの創出・発掘についても木目細かに支援し、研究活動の活性化に取り組んでいます。2023 年度は、6 月 20 日（水）に科研費申請支援セミナーを開催し、ワークショップには 30 名が、講演会には 87 名が参加しました。科研費申請書作成については、2 名の URA が若手研究者 23 名を個別に支援しました。一方、研究者の交流の場として、学内研究発表会を 10 月 16 日（月）に開催しました。研究発表者 20 名を含む 112 名が参加し、活発な意見交換が行われました。また、本学と関西学院大学との医工連携プロジェクトの一環と

して11月6日(木)本学にて「VR講座」を開催し、医工連携について学び考える場を提供しました。なお、参加者は49名でした。



表5は2024年度の科研費採択結果です。本学の新規採択率は25.6%で、2022年度から年々増加し、本学の科研費申請支援が徐々に効果を発揮していると考えています。しかし、全国の新規採択率が例年27%前後であることを踏まえ、科研費を獲得できるよう、より一層、申請支援に取り組む所存です。

表5. 2024年度科研費応募・採択件数

医学部			
研究種目	応募件数	採択件数	継続件数
学術変革領域研究(A)	4	0	-
基盤研究(S)	-	-	-
基盤研究(A)(一般)	-	-	-
基盤研究(B)(一般)	12	5	7
基盤研究(C)(一般)	143	38	55
若手研究	43	10	25
挑戦的研究(萌芽)	10	0	2
研究活動スタート支援	5	2	2
奨励研究	28	3	-
計	245	58	91

薬学部			
研究種目	応募件数	採択件数	継続件数
学術変革領域研究(A)	-	-	-
基盤研究(S)	-	-	-
基盤研究(A)(一般)	-	-	-
基盤研究(B)(一般)	1	1	-
基盤研究(C)(一般)	25	5	10
若手研究	4	2	4
挑戦的研究(萌芽)	-	-	-
研究活動スタート支援	1	1	-
奨励研究	-	-	-
計	31	9	14

看護学部			
研究種目	応募件数	採択件数	継続件数
学術変革領域研究(A)	-	-	-
基盤研究(S)	-	-	-
基盤研究(A)(一般)	-	-	-
基盤研究(B)(一般)	1	1	2
基盤研究(C)(一般)	10	6	9
若手研究	1	1	2
挑戦的研究(萌芽)	2	0	-
研究活動スタート支援	1	0	1
奨励研究	-	-	-
計	15	8	14

リハビリテーション学部			
研究種目	応募件数	採択件数	継続件数
学術変革領域研究(A)	-	-	-
基盤研究(S)	-	-	-
基盤研究(A)(一般)	-	-	-
基盤研究(B)(一般)	-	-	-
基盤研究(C)(一般)	13	3	3
若手研究	4	1	1
挑戦的研究(萌芽)	1	0	-
研究活動スタート支援	-	-	-
奨励研究	-	-	-
計	18	4	4

表 6 には国内民間企業との共同・受託研究の受け入れ件数および特許保有件数の 2020 年度から昨年度までの推移をまとめています。本学では、社会学連携・研究推進センターだけでなく臨床研究支援センターが社会のニーズに迅速かつ的確に対応した産官学連携活動を推進しています。表 6 は、その取り組みが着実に奏功していることを示しています。なお、今後、本学における研究活動を自己点検評価していくために KPI として 2024 年度から共同・受託研究件数と特許保有件数について目標値を設定し、より一層、本学の知的財産、シーズなどを社会還元・社会実装すべく、全学的に研究活動の活性化に取り組んで参ります。

表 6. 共同・受託研究実施件数と特許保有件数の推移

国内民間企業との共同研究	
年度	実施件数 (新規)
2020	35 (9)
2021	47 (8)
2022	48 (17)
2023	59 (20)

国内民間企業からの受託研究	
年度	実施件数 (新規)
2020	55 (14)
2021	44 (13)
2022	59 (13)
2023	61 (12)

特 許	
年度	保有件数 (国外)
2020	64 (40)
2021	56 (38)
2022	65 (43)
2023	74 (47)

《社会学連携》

本学では、社会学連携・研究推進センターの地域連携・生涯教育部門と地域連携実践ステーションが主体となり、地域医療職者・地域住民の生涯教育や自治体・地域コミュニティとの連携活動を推進し、「ひとづくり」と「まちづくり」に取り組んでいます。以下、2023 年度の主な活動について報告します。

ひとづくり

2015 年に兵庫医療大学（現・兵庫医科大学）、丹波市および兵庫県丹波県民局の三者間で締結した「薬草振興の連携活動に関する協定」に基づき、薬学部「薬活オウルズ」は丹波市内外で薬草振興に取り組んでいます。2023 年度は、丹波市山南町和田小学校の 4～6 年生（23 名）を対象として 8 月 8 日に「当帰葉ワークショップ～当帰葉を五感で学び・楽しむ」を開催しました。薬学部 5 年次生 6 名が、地域の名産「当帰」を学ぶ「ふるさと学習」の場を提供し、同小の児童だけでなく



保護者等の関係者からも非常に好評でした。

また、兵庫県立氷上高等学校・丹波学「企業経営」の四半期分を担当し、2年生 87 名が 23 グループに分かれて当帰薬商品を考案する場を提供しました。11月8日、22日、29日の授業には延べ 17 名の薬学部 5 年次生が参加し、グループワークを支援しました。



さらに、2022年9月に締結した「兵庫医科大学と株式会社有馬ビューホテル」包括協定に基づき、薬活オウルズは5月13日、8月26日、11月18日、2024年3月20日に薬草ワークショップを同ホテル・太閤の湯にて開催し、その運営を支援するため薬学部 2～5 年次生 39 名（延総数）が参加しました。



これらの活動を通して、丹波市の将来を担う小学生と高校生に対する「ふるさと教育」や丹波市外の住民を対象として薬草振興を実践できました。また、学内での学びを地域における課題の解決へと展開し学びを深める場、つまり「サービス・ラーニングの場」を

参加学生たちに提供できました。

サービス・ラーニングの場として、本学では、神戸キャンパス・ポーアイ・コモنزでの「兵庫医大生による健康チェック」と丹波篠山コモنزでの丹波篠山市主催「健康教室・お試しクラブ～いきいきデカボー体操～」を提供しています。これらの活動には、主に、公認学生サークル「ポーアイ多職種連携学生ネットワーク」の学生たちが参加しています。2023 年度の実績を表 7 にまとめました。

表 7. 2023 年度 兵庫医科大学ポーアイ・コモنز／篠山コモنزでのサービス・ラーニングの実施実績

日 時	コモنز	参加学生数 (参加住民数)
6月24日(土)	ポーアイ	6(58)
9月1日(金)	篠山	2(18)
9月8日(金)	篠山	2(22)
2月16日(金)	篠山	1(30)
3月8日(金)	篠山	1(28)
合計	5回	12名(156名)

本学は地域住民に生涯学習の場も提供しています。表 8 にまとめたように、2023 年度は延べ 28 回の講演会、セミナー等を開催しました。高齢者から子供まで幅広い世代の地域住民に、健康科学からバスボム作りまで広範囲な科学を身近に感じ、考え、学ぶ場を「地域とともに学ぶ大学」として提供しました。

表 8. 2023 年度に実施した講演会、セミナー等

開催日	講演会、セミナー等の演題 (担当者*／参加者数)
6月24日(土)	薬の使い方～基礎編～ (薬・村上 雅裕／70名)
8月26日(土)	ポーアイみんなの サイエンスカフェ (薬・大野 喜也／25名)

8月30日(水)	バスボムを作って化学反応を 見てみよう (薬・岩岡 実恵子/7名)
9月9日(土)	産み育てにまつわる生涯にわたる 男女の健康 (看・西村 明子/15名)
9月20日(水) 10月6日(金)	健康みなおし教室 ～トイレに悩む前に～ (リハ・森 明子/6名)
10月14日(土)	ポーボキ・ピース・ネットワーク (薬・桂木 聡子/17名)
10月28日(土) 3月24日(日)	おやこ性教育 (看・川内 恵実子/23名)
2月13日(火) 2月20日(火) 2月27日(火)	介護予防サポーター養成講座 (リハ・永井 宏達/180名)
11月11日(土)	習慣から見直す介護予防 (リハ・小林 隆司/43名)
11月25日(土) 12月23日(土) 12月24日(日)	脳と心の健康チェック (リハ・土江信誉/21名)
12月2日(土)	ゲノム編集食品って何？ (医・大村谷 昌樹/36名)
12月9日(土) 3月8日(金)	嚥下機能低下予防講座 (薬・桂木 聡子/72名)
12月13日(水)	ゲーミフィケーション及び 放射線計測を通じた 地域住民への放射線教育 (薬・藤野 秀樹/39名)
12月13日(水)	細菌増殖シミュレーションを 用いた抗菌薬の適正使用推進 (薬・栄井 修平/39名)
1月20日(土) 3月10日(日)	災害の備えについて語り合おう (看・田村 康子/23名)
2月20日(火) 2月26日(月) 3月4日(月)	リラクセーションを取り入れた 健やかな生活を目指して (看・鈴木 みゆき/108名)
3月20日(水)	口腔・嚥下機能低下のためのセル フメディケーション講座 (薬・橋本 佳奈/57名)

* 医：医学部、薬：薬学部、看：看護学部、リハ：リハビリテーション学部。

本学では、地域医療専門職者、特に薬剤師に対して生涯学習の場として「Web-EBM 倶楽部」を薬学部・清水 忠 教授が中心となり毎月1回のペースで提供しています。表9にまとめたように、2023年度は13回のオンライン・セミナーと対面にて薬学部生対象の

クティブラーニング型キャリア教育プログラム (Career Axis Support Program: CASP) ワークショップを開催しました。オンライン・セミナーへの2023年度の総参加者数は359名にも上りました。COVID-19禍の2020年7月に第1回Web-EBM 倶楽部を開催して以来、本セミナーは2024年3月で48回目を迎え、地域の薬剤師の生涯学習に大いに貢献しています。

表9. 2023年度 Web-EBM 倶楽部

開催日 (参加者数)	テーマ
4月1日(土) (48名)	コーヒーの急性的効果に関するランダム化比較試験
4月29日(土) (55名)	血圧効果の最大化を目指した特定の薬剤を特定の個人にターゲティングする可能性の調査&定量化のランダム化比較試験
6月3日(土) (28名)	変形性膝関節症に対する高負荷運動 vs 低負荷運動のランダム化比較試験
7月1日(土) (46名)	講師2名が最近気になる5個の論文をそれぞれダイジェストで紹介
7月29日(土) (20名)	重炭酸イオン水による胸やけ緩和に関するランダム化比較試験
9月9日(土) (17名)	体内デバイスによって検出される心房性不整脈患者に対する抗凝固薬投与の効果に関するランダム化試験
10月1日(土) (35名)	ハイパーポリファーマシーへのCDTMに基づく薬剤師介入の効果に関するランダム化試験
10月28日(火) (29名)	高齢者への带状疱疹ワクチンの効果に関するシステマティックレビュー
11月25日(土) (24名)	介護施設における感染・入院予防のためのDecolonizationの効果に関するランダム化試験
12月30日(土) (23名)	講師2名が最近気になる5個の論文をそれぞれダイジェストで紹介
1月27日(土) (21名)	性腺機能低下症の男性に対する男性ホルモンを投与の効果に関するランダム化試験
2月4日(土) (26名)	【第7回兵庫医科大学 Student CASP Workshop】 非糖尿病患者に対するセマグルチドの心血管イベントへの効果に関するランダム化試験

2月24日(水) (19名)	過体重または肥満の成人の体重管理に対する胃内拡張可能カプセルの効果に関するランダム化試験
3月30日(土) (23名)	血圧に対するRNA干渉治療薬ジレベシランの第II相試験

まちづくり

2023年度も、「薬活オウルズ」は丹波市山南町における地域創生支援活動を実施しました。4月11日(土)、6月24日(土)、10月15日(土)の3回、当帰圃場において山南町当帰生産部会の皆さんと一緒に当帰葉茶用の当帰葉を収穫しました。2017年から継続してきた「当帰葉栽培プロジェクト」も地域に浸透し、当初、8名だった生産部会のメンバーも15名にまで増えました。微力ながら漢方の里・山南町の「まちづくり」に貢献できたと考えています。



また、兵庫医療大学が2018年に立ち上げ、大学統合後も継続している「健康づくりサポーターバンク事業」では、リハビリテーション学部・永井らが2023年度も開講した「介護予防推進サポーター養成講座」の修了生33名のうち32名に新たに登録いただき、2023年度末現在の総登録者数は113名になりました。登録サポーターの皆さんは、精力的に地域の健康づくりに取り組まれ、港島ふ

れあいセンター(毎月第4月曜日)、籠池地域福祉センター(毎月第3月曜日)、大倉山どんぐり公園集会室(毎月第2水曜日)、清風公民館別館、宮本地域福祉センターなどで、デュアルタスクや、オリジナルのプログラムを駆使しつつ、介護予防体操教室を37回も自主運営されました。同教室への参加者総数は、地域住民465名、登録サポーター120名に上りました。登録サポーターの皆さんの熱意と行動力により、健康づくりサポーターバンク事業の目的「地域の、地域による、地域のための健康づくりの実践」が様々な地域に、着実に普及していることを、大学として非常に嬉しく思っています。



以上